

「人間の感覚と都市空間の未来」の編集にあたって

Editorial Preface: Future of Urban Space and Humanity

高松 誠治（担当編集委員）

This special issue features the relationship between urban space and humanity, especially its importance on urban design practice. This argument, along the lines with Jane Jacobs, Kevin Lynch, and Christopher Alexander, must be valid and important at the present time, but is often overlooked or even neglected on many urban projects in practice. This issue begins with the contributed articles by world's leading urban thinkers, Jan Gehl and Bill Hillier, followed by articles by Japanese researchers and practitioners. In the second half of the issue, various aspects of "human sense" are addressed for looking towards the future of urban spaces.

■人間の関わり方から見る、都市空間のデザイン

ジェーン・ジェイコブス、ケビン・リンチ、クリストファー・アレクサンダー・・・彼らは都市空間を人の活動や感覚との関わりから考え、世界中に影響を与えた。日本においても訳本が刊行され多くの人に読まれたが、現在においてこのような議論を聞くことは少ない。まるでそれが一部の専門家内の「ブーム」であったかのようである。では、彼らが主張した都市の姿は既の実現しているのか？あるいは、既に時代遅れなのか？いずれも否である。

今、世界各国の状況を見ても、都市空間の質・デザインに関する議論の輪は小さく、そして弱い。一部の国々で広がりつつある程度である。日本ではとりわけ小さく、他の分野の成熟度や議論の多さと比べるとなおさらである。本誌 276 号特集「都市空間のデザイン・チャンピオンとは？」においては、この状況を変えるための戦略について議論したが、同時に多くの課題も指摘された。

都市の形態や様相が人の心理や行動に与える影響など、人と都市空間の普遍的な関係性は、まだまだ解明の余地があるのではないか、これが本特集の問題意識である。

■都市を理解すること、都市の未来を構想すること

2010 年代に入った今、都市や建築の専門家が未来の姿を提示することは、半世紀前と比べると格段に難しくなっているのではないか。都市の魅力が低下していると言われるが、それを食い止める画期的な処方箋を書くことは非常に難しい。

都市空間は、様々な社会的な問題と関係する。現代社会においては、利害が対立するジ

レンマや入れ子状に絡まる複雑な問題も多く、都市空間側は常に受け身となってしまふ。

このような時こそ、人間にとっての根源的な都市の価値や、人間の様々な感覚と都市空間との関わりなどの観点から「都市を理解しようとする」ことに立ち返ることが必要ではないか。そしてその理解を広く発信し、ユーザーである市民一人一人が意識を共有しなければ、都市空間の現実的な未来を構想し、実現することはできないのではないか？

■人間の感覚と都市空間の未来：再出発点として

この特集ではまず、冒頭に挙げた思想家に続く現役の都市思想家、ヤン・ゲール、ビル・ヒリアー両氏に、現在の考えを披露していただいた。続いて、日本において活発に都市論を発表する原広司氏、アーバンデザインの実務においてその黎明期からリードしてきた土田旭氏、人の感性と都市についての論を展開しマスメディアへの発信力もある涌井史郎氏に、このテーマに関係した論考をいただいた。また、都市における様々な「人間の感覚」について学術的研究を進めている大野隆造氏に、このテーマを俯瞰する論考をお願いした。

後半では、「人間の感覚」の要素について、代表的な研究者に考察していただいた。まず、現代の都市に暮らす人々の方向感覚について、村越真氏。都市における寸法、スケール感覚について、太田浩史氏。人の都市空間認知をアフォーダンスの観点から、関博紀氏。都市生活の時間感覚について、荒井良雄氏。人間の移動感覚と街路デザインについて、ベン・ハミルトンベイリー氏。高齢者・障害を持つ人々の都市に対する感覚について、水村容子氏。公共空間における相互作用感について、鈴木毅氏。都市空間における人の恐怖感について長澤夏子氏。都市の楽しみ、五感、帰属感覚について、伊藤香織氏。最後に、都市空間に関する人の記憶や郷土心について、齋藤潮氏に論じていただいた。

この特集が、都市空間の質に関する議論のきっかけとなり、日本の大都市、地方都市、様々な生活の場が魅力的かつ楽しい場所となることを願う。

執筆者の方々には、ご多忙の中、趣旨をご理解いただき、御寄稿いただいたことに心から感謝いたします。

（編集委員：高松誠治）